[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価報告概要表

作成日　平成20年7月8日

[評価実施概要]

事業所番号	1171600719
法人名	メディカル･ケア･サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム上尾原市
所在地	〒362-0021　埼玉県上尾市原市230-1 (電　話) 048-720-1500

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会　福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529　埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月23日

[情報提供票より] (平成20年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計　27 人
職員数	20　人	常勤　12人，非常勤　8人，常勤換算　13.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造ＡＬＣタイル張造り
	3 階建ての　1 階 ～ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	58,000 円		その他の経費 (月額)	40,000円＋実費
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　(300,000円)		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり900円			

(4) 利用者の概要 (4月30日現在)

利用者人数		25 名	男性	5 名	女性　20 名
要介護1		6 名	要介護2	9 名	
要介護3		5 名	要介護4	3 名	
要介護5		2 名	要支援2	0 名	
年齢	平均	81.64 歳	最低	64 歳	最高　94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さいたま記念病院、矢尾歯科医院

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

元アスレチックの跡地に建つ当ホームは、周囲を緑に囲まれた新興住宅地である。広い敷地の中には菜園があり、野菜を栽培している。建物の中は日射が入り明るく、利用者はゆったりとした時を過ごしている。また、近隣の保育園児たちがホームを訪れることもあり交流を持っている。職員はケアも独自に工夫し、利用者本位の笑いが多く、明るい雰囲気のホーム作りに向け日々努力している。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4)** 評価の結果を職員で話し合い、ケア日報･週間日報に取り入れ、スタッフが意識を持てるよう取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) 外部評価とともに自己評価の結果を職員で話し合い、改善に向けて取り組み努力している。また、家族には評価の報告書を郵送するなどの取り組みを行っている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6)** 2か月に1回、運営推進会議を開いている。会議では、ホームからの報告をし、会議に参加の方達にも活発な意見を出してもらって、出された意見を活かしながら前向きに取り組んでいる。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映 (関連項目：外部7，8)** 意見箱を置いている。本社が家族からの匿名のアンケートの受付対応するなど、直接には言いづらい事を拾えるようにし、改善に向け取り組んでいる。また、ホームでは、面会時に家族との会話を多く持ち、苦情になる前に対応をしている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)** 近隣の小学校･中学校の子ども達がホームを訪れ、レクリエーションを行ったり、ボランティアに参加している。近隣の方達もホームに立ち寄り、利用者と会話をしたりし、行事への参加･協力を得ている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** **地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている**	法人全体が地域の中で関わりながら生活する事を理念の中に組み込んでいる。ホームでも職員で話し合い、地域性を活かした理念をつくりあげている。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** **管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる**	申し送り時に毎朝、職員全員で理念を唱和している。また、運営理念は見易い場所に掲示し、日々のケアの中で共有して、意識しながら日々の業務を行っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** **事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている**	地域の老人会、自治会には入っていないが、近隣の人々、保育園、小･中学校の子ども達がホームを訪れ、一緒にレクリエーションや行事に参加し交流が図られている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** **運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる**	自己評価及び外部評価の結果を職員と話し合い、ケア日報、週間日報に取り入れて、職員が意識を持ち理解するよう取り組んでいる。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** **運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている**	2か月に1回開催している。ホームからの報告をし話し合いを行って、活発な意見、質問を出してもらい、サービスの向上につながるよう意見をケアに活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告を行っている。また、感染症に対する事柄に関して報告し、意見を求めるなど、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者個人の「たより」を作成し、状況や出来事などを家族に報告している。また、電話連絡やメールでのやりとりで利用者の様子を伝えることもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の見易い場所に「意見箱」を設置している。外部者も利用出来るようにしており、できるだけ意見を言いやすい環境作りに努め、改善に向け取り組んでいる。また、ホームでは、面会時に家族との会話を多く持ち、苦情になる前に対応をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は良い。離職を最小限に抑えるようコミュニケーションを大切にしており、開設時からの職員が多く、チームワークも保たれている。職員の異動の際は、利用者にできるだけ影響しないよう努めている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は多く開かれており、職員が参加している。参加した研修は個人の研修で終わらないよう、全職員に報告している。法人からのOJTも行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、他のホームの職員との情報交換を行って交流を図っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人、家族にできるだけ見学してもらっている。ホームの雰囲気を感じてもらい、話し合いの場を多く持つことで納得が得られるよう努力している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のケアの中で利用者から教えられ学ぶ事が多い。寄り添い支え合う関係を大切にし、日々の支援を実施している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴の把握をし、本人、家族に意向を聞くなどして、できるだけ利用者の思いの把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを行い、本人、家族の意向を聞きカンファレンスを開き、意見を出し話し合った上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネージャーとリーダーを中心に、ミーティングやカンファレンスを開き、介護計画の見直しを行っている。また、利用者に変化が生じた場合は、家族に連絡し話し合った上で、新たにケアに取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスなどはないが、通院や送迎支援など、家族の要望や状況に合わせて臨機応変に対応している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他に、利用者が今まで通院していた病院に受診してもらっている。家族が通院介助出来ない時には、状況によりホームで対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の医療体制指針を法人で作成している。最後は病院に搬送しているが、家族や主治医との連携をとり、信頼関係を築きながら契約時の「看取り」について柔軟な対応を行い、利用者の変化や状態に合わせ話し合いを行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねることのないよう配慮し、さりげなく声を掛け対応するよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少し時間がずれても、その時の利用者の気持ちやペースを大切にして、居心地の良い生活を送れるよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の生活の中で食事は楽しみの一つでもあるため、ゆったりと食事が出来るよう職員は配慮している。出来る方は自ら進んで手伝うなど、一人ひとり持っている力を活かしながら職員と一緒に準備･片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者と家族の希望により、入浴曜日と時間を決め、入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かし、掃除、洗濯物たたみ、本の好きな方には本を読んでもらうなど、楽しみごとや役割を持てるよう支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日行っている。その他、カラオケ、季節ごとのドライブ、初詣など、利用者個々のニーズに添った支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していないが、玄関･フロアの出入り口には鍵をかけている。声を掛けてもらい自由に出入りが出来るようになっており、希望に応じて外出支援などの対応をしているが、他のグループホームはどう対応しているのか、評価を受けて法人とも改善に向けて話し合う予定である。	○	安全に各階を移動できるようにすることも含めて検討し、家族等とも相談し話し合いを重ねることが望まれる。その上で、利用者の安全も確保しながら日中鍵をかけずに過ごせる工夫に取り組まれることを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いのもと火災訓練、避難訓練を実施している。今後は地域の人達にも働きかけ協力が得られるよう取り組んでいくことにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事、水分の摂取量はチェック表に記入して、職員間で情報を共有している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには明るい色のソファー、観葉植物などが配置され、飾ってある花からは季節を感じられる。廊下の突当りには作りつけのベンチがあり、利用者同士で交流をしたり、外を眺める事が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使用していた馴染みの家具、仏壇などを居室に置き、自宅に居る雰囲気で安心して過ごせるよう配慮がなされている。		